

平成24年1月分

## とんがれ

新年あけましてお目出とうございます。今年も中小企業にとって厳しい年になることは間違いないことですが、このよくなる経済状況の中でも確実に業績を伸ばしている会社もあります。一倉定先生の言葉で私の一番好きな言葉は、「郵便ポストが赤いのも、電信柱が高いのもみんな社長のせい」「会社はよい会社と悪い会社があるのではなく、よい社長と悪い社長がいるだけだ」。会社の業績のよい悪いは社長の経営力によるものですが、私の会計事務所経営29年の経験から思うのは、業績のよい会社、長く続ける会社(30年以上)の社長は、バランスがとれている。特定の部分が突出しているということです。まず学歴が高くなり、高校卒業が多次学を出ていても世にいう一流大学は出ていない。二流、三流大学で4年で卒業している社長や自称中学時代の社長もいます。ましてやMBAなど取得していない。容姿はカッコいいとは言えない、長身で着こなしているという人はめったにいない。どちがと言うと背が低かったり、太っていたり、あまりカッコよくない。家庭を大事にしているかというよりも家庭を大事にしている。奥様の評価はすこぶる低い。奥様には頭があがらないか、けして奥様に口ごたえはない。よく夫婦げんかはないので傍から見ると夫婦仲がよいように見える。仕事中心なので子供の教育まで手が回らず奥様まかせなので子供が優秀でいけているとは限らない。社員のほうが教育熱心である。ではよい社長は、どこが特徴かという、特定の部分が常人より数倍尖っています。まず商売の勘がとてつもない。嗅覚がするどい。これからはこんな時代がくる。こんな商品がはや商品・サービスを時代の変化に合わせて変えている。いわゆる戦略立案能力に優れている。そして、人一倍仕事熱心で労働時間が長い。そのためにお客様が好かれ、よいお客様に恵まれている。その他にその社長に技術力がある。人を教育したり指導する才がたけていたり、営業力がとてつないたり等突出しています。そのために周りからは変人扱いされている社長もいます。私は会社でも同じではないかと思っています。一流大学出の社員の多い会社の業績がよいかというところはありません。会計事務所業界でいうと、税理士とか会計士という資格者の比率の高い会社が伸びているのではなく、人柄のよい社員の多いところが伸びています。これは全ての業界であてはまります。社員には「学生時代は90点とればほめられたけど、仕事では、90点ではダメだ、100点以外は落第、カンニングしてでも満点を取らなければいけない」と言い聞かせています。学生時代の成績で通信簿で4とか5の多い人より、1、2、3が多くて1つか2つ、4、5がある人のほうが中小企業に向いている気がします。他は並以下だとしてもこれだけは会社で一番だというのを持つこと、自分の得意分野を持つ、特定の分野でとてつないたりばNO1なので人が頼りにされ、会社も必要とされる。必要ない人はいくつになっても働けて、楽しい人生を送れる。とこかく何でもよいがトシガレ、尖った集団が変化の時代を生み出す社員一人一人が何で尖るか自分で探せ。そうしないと定年後に働く場はなくなるよと言っています。会社社員とその家族を守るために、個人は家族と会社のために常に成長していかなければなりません。私は今年の9月で60歳になりまふ、丸くありません、尖った人生挑戦し続ける人生でいきます。社員お客様、古田士会計にかかわる全ての人達にお役に立てるおに努力します。今年もどうぞよろしくお願ひ致します。

古田士 満